

農福連携による新たな共生と 地域コミュニティの創出について



10月5日、レ・コード館で新冠ほくと園ふれあい企画検討委員会が主催する『地域共生社会福祉によるまちづくりセミナー』が開かれました。講師には、日本農福連携協会代表理事の榊原典俊氏を招き、農福連携の先進地の取り組みなどが紹介され、「働く場の農業と、働き手の障がい者が繋がることで、地域コミュニティの活性化が期待できる」と強調していました。

豪州G1 トウライラックH制覇 ファイアースインパクト号



10月12日、オーストラリアコーフィールド競馬場で行われたG1トウライラックHで、字高江の隆栄牧場で生産されたファイアースインパクト号が世界の強豪馬を抑え、見事優勝を果たしました。
同馬は昨年、NHKマイルカップで優勝したケイアイノーテック号の全兄で、兄弟揃つてのG1制覇に関係者たちは喜びを噛みしめ、今後の活躍にも期待していました。

新冠消防団秋季消防演習 日頃の訓練の成果を披露



10月20日、日高中部消防組合新冠消防団の『秋季消防演習』が行われ、消防団員93名が参加しました。
消防団員は、それぞれが本業の仕事を持ちながら火災や災害が発生した時に消火活動などを行う地域防災を担う町民で構成され、この日は、日頃練習してきた小隊訓練と火災防衛訓練を行い、息のあったチームワークを披露しました。

世界中から集めた不思議なマジック アッキーさんのマジックショー



10月26日、町民センターで『アッキーさんのマジックショー』が行われました。
音楽に合わせてトランプやひも、風船などを使ったマジックを次々と披露していました。
軽快な音楽とMCに乗せて繰り出すマジックと笑いを誘うショーに、会場はたくさんの笑顔が溢れ、大人から子どもまで楽しいひと時を過ごしました。

文化協会創立50周年記念 第50回新冠町民文化祭



10月20日、レ・コード館民ホールで新冠町文化協会（鹿野慎二会長）が主催する『第50回新冠町民文化祭芸術発表会』が開かれ、13団体が出演し、約200名の方が日頃の練習の成果を披露しました。



発表会は、新冠中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏で幕を開け、バレエや太鼓、合唱、民謡などが披露されました。
また、25日から27日までの3日間は、総合作品展が開かれ、書道や絵画、写真、陶芸などのほか、小学校やこども園、福祉施設の作品など約450点が展示されました。

まちの話 題 あれこれ

全力を出し、最後まで、 心を一つにがんばろう

10月25日、新冠小学校で児童235名による『学習発表会』が開かれました。
トップバッターとなった1年生は、初めての発表会で大勢の人前で緊張した面持ちでしたが、音楽が流れると元氣いっぱい踊り始め、練習の成果を発表していました。
その後は、2年生から6年生までの劇や音楽などが発表され、児童の熱演に大勢の父母や来場者から大きな拍手が送られていました。



『こども園ミニミニ運動会』 練習したかけっこや踊りなど披露



10月12日、町民スポーツセンターで、認定こども園の0歳から2歳児までの園児を対象とした運動会が開かれ、59名の園児とその保護者などが参加しました。
園児たちは、大勢の人前で泣いてしまう子もいましたが、親子競技では、大好きなお父さんやお母さんと一緒に協力しながら笑顔でゴールを目指していました。

今年で16回目 バッドの森づくり植樹祭



10月12日、字東川の国有林でアオダモ資源育成の会が主催する『バッドの森づくり植樹祭』が開かれました。
これは、バッドに使用される木材「アオダモ」が近年急激に減少している状況を危惧された野球愛好者や関係団体、バッド生産者などが一体となって長年にわたり取り組まれてきた活動で、当日は約100名が参加し、予定した500本の苗木を植えました。

ふるさと再発見講座 昔の新冠を紐解く



10月26日、レ・コード館で文化の秋にちなみ新冠町の歴史について学ぶ『昔の新冠を紐解く〜ふるさと学習会〜』が開かれました。
学習会では、昔の市街地の様子や江戸時代から商店で使われていた帳簿「大福帳」についての説明があり、新冠郷土文化研究会会長の乾芳宏氏は「大福帳は町の歴史を具体的に知ることができる重要な資料」と話されました。

にいかつぷ自然体験クラブ どきどき酪農体験



10月27日、シミズデイリーファーム（字明和）で『どきどき酪農体験』が行われ、29名の親子が参加しました。
この日は、清水秀人さんから牛の体の特徴についての説明を聞いた後、乳搾りや牧草やり体験を行い、最後にはペットボトルと牛乳で、バターづくりに挑戦しました。
子どもたちは、初めての体験に真剣な眼差しで牛と触れあっていました。